都立立川国際中等教育学校附属学校（２年目）

【校長】	【児童数】	【学級数】
横田　雅博	272 名	８学級

次の取組へ

【課題・改善】

①各種目の記録については、個人の記録は高まっているものの、全国平均の記録に届かない学年もある。記録を高めるために取組をするのではなく、児童が楽しんで日常から運動に取り組み、結果的に体力が向上するような体育科の授業作りを意識し、校内でも OJT を推進していく。

②給食前の手洗いは徹底できているものの、外遊び後等、日常的にすすんで手を洗う児童があまり増加しなかった。来年度は委員会活動も発足するため、児童主体で保健活動を推進できるよう働きかけていく。

③残食率は低下しているものの、学年によって差があり、特に低学年の残食率が高いため、目標の２%以下に届いていない。発達段階に合わせた食育指導を工夫したり、残食の多い牛乳をテーマに指導を行ったりするようにしていく。

【実態・課題】

① **バランスのよい体力向上をめざして**

体力テストの結果から、本校の児童は「ソフトボール投げ」や「握力」、「上体起こし」の記録が低いことが分かっている。ボール遊びや器械運動・固定遊具遊びでの運動経験が乏しく、運動感覚が身に付いていないことが原因と考えられる。

② **健康的な学校生活について**

体調を崩し、欠席する児童が多い。少人数指導の授業で学年間が入り交じったり、全校で集まって給食を食べていたりすることもあり、感染症が広がりやすいという課題がある。

③ **よりよい食生活について**

低学年を中心に、給食を残す児童が多い。特に野菜や牛乳の残食が多く、栄養バランスが偏ってしまっている。健康によい食事とは何か、理解できるような指導が必要である。

目標

・体力テスト「ソフトボール投げ」、「握力」、「上体起こし」の記録向上（各学年の平均が全国平均以上）
・日常的にすすんで手を洗う児童の育成（全児童の 95%以上）
・好き嫌いせず、給食を残さず完食する児童の育成（残食率２%以下）

【成果】

①校庭遊びで使えるボールの種類を増やしたり、外部人材の活用も含め体育科で様々なボールゲームに触れる機会を増やしたりすることで、日常的に球技を楽しむ児童も増えた。どの学年についても、「ソフトボール投げ」、「握力」、「上体起こし」の記録は向上している。

②保健指導や食育指導を通し、すすんで手を洗うことの大切さについては意識付けを行ってきた。日常的にすすんで手を洗う児童は 95%である。特に給食前の手洗いを徹底したことで、感染症が流行する時期にも感染が大きく広がることなく、健康に過ごすことができた。

③年度当初の残食率は約８%だったが、年間を通して繰り返し食の大切さを考えられるような授業を行い、苦手なものが出たらどうするかを考えさせたことで、３学期には約５%に減少した。上級生になるにつれて、バランスよく喫食することを意識し、残食が少なくなっている。

【取組】

① **多様な運動機会の創出**

日々の体育の学習から、それぞれの学年の課題に合わせた補助的な運動や遊びを取り入れる時間を確保する。

また、外部人材を活用し、児童が「する」だけでなく、「見る・支える・知る」運動の喜びを味わうことができるような機会を増やす。

② **手洗いの励行**

保健指導や日々の生活指導を通して、外から戻ってきたときや、給食を食べる前には、必ず手を洗う習慣をつけさせる。「元気アップカード」を活用し、学校と家庭の両方から児童に働きかける。

③ **栄養教諭による食育**

日々の給食指導でデジタルを活用した食育指導を行い、児童の食への意識を高めるようにする。また、「おやつ」の摂り方に関する特別授業を行うことで、間食に対する知識を増やし、健康的な食生活へつなげる。

【取組（詳細）】

○　外部人材の活用

① **第４学年　跳び箱運動（アスリート派遣事業）**

スポーツ庁による、令和７年度「アスリート派遣等による体育授業等の充実・高度化の促進事業」より、体操の選手を招き、特別授業を実施した。アスリートと児童との交流の中で、競技経験から得られた知見を活かした技術指導や自身の体験から感じたスポーツの価値を伝えてもらうことで、児童が「わかる・できる」を体感したり、運動やスポーツの意義を感じたりする姿が見られた。

講師の先生からは、現役時代に大切にしていた「挑戦し続けること」について講話をしてもらった。また、実技指導では、美しい着地について指導を受け、どの児童も意識的に「美しく技を見せる」ことの楽しさを実感していた。

② **第３学年　ベースボール型ゲーム『Baseball5』**

昨年度に引き続き。『Baseball5』の特別授業を実施した。日本代表選手に投げ方の指導を受け、さらに、どこでも少ない人数で簡単にできるゲームを体験したことで、昼休みにも友達同士誘い合い、一緒に『Baseball5』をして遊ぶ児童が見られた。外部人材を活用した多様な球技等の運動経験が、体力向上につながっている。また、ユースオリンピック（2026 年）の公式種目となった『Baseball5』を「見る・知る」貴重な機会となった。

現役日本代表選手の迫力あるプレイに驚きの声が上がった。本校の課題である「投力・握力」を重点的に指導してもらうことで、その後の学習や運動に活かそうとする姿が多く見られた。

③ **第１学年　体つくりの運動遊び『柔道』**

本校では４年目となる、柔道連盟の方を招いての特別授業を実施した。柔道の動きを取り入れた運動遊びを行い、力強い動きを身に付けるとともに、相手を尊重する礼儀の精神を身に付けることができた。相手を思いやる気持ちを大切にする姿は、他の運動遊びに取り組む際にも多く見られるようになった。本校児童の課題でもある「筋力」を楽しみながら高めるためにも、大変効果的であった。

現役の柔道選手を投げたり、受け身をとったりする運動に大興奮していた。組み合う前後の礼の大切さについても繰り返し指導されることで、日本伝統の礼儀を大切にする気持ちを感じている様子だった。

○　栄養教諭による食育

第４学年では、「おやつ」の摂り方に関する特別授業を行った。児童にとって間食は栄養を摂るために必要なものであることを理解し、カロリーや塩分・糖分等を意識した理想の「おやつ」について考える活動を楽しんだ。

本校では全校児童がランチルームに集まって給食を食べるため、栄養教諭が毎日 ICT を活用した食育の５分間指導を行っている。また、年間を通じて６回、食育の授業を実施している。動画やスライドを活用することで、「食材はこのように栽培されているんだ。」、「給食はこんな風に調理されているんだ。」と食に対する興味・関心が生まれている。食育の授業の際は、一人１台端末を活用して児童の考えを集約し、数値の視覚化を図っている。